

「こんにちは」。店舗事務所の奥から響く優しい声。笑顔に包まれた姿がのれんから現れると、一瞬で緊張感がほぐれました。ゆったりとした語り口が、安心感を生み、人柄の良さも加わって自然と会話が進みます。市街地の一角で商売を始めて今年で31年。町商工会女性部長として、36人の仲間と共に地域の活性化に力を注いでいる上田さんに話を聞きました。



町商工会女性部長  
うえだ てるみ  
上田 輝美さん(60歳)

一致団結 走り続ける

札幌市出身で、結婚後に出産して町に移り住みました。「厚真に来て、今年で40年。すっかり町民です」。当初は、専業主婦で、町商工会との関わりはほとんどありませんでした。近所付き合いが増え、10年以上前に2代前の女性部長の勧めで商工会活動に参加。理事や副部長を歴任して部長になり、現在、2期6年目を迎えています。部員は30歳代から80歳代と幅広く、「何かあると一致団結するのが

女性部の自慢です」と目を輝かせました。

平成30年9月の胆振東部地震。「何かしなければ」と考えていた矢先、女性部員が自発的に集まり、避難所での炊き出しを始めました。「音頭を取った訳ではないのに、皆さんが集まったの。すごい仲間だなんて感動しました。私の誇りです」と胸を張りました。

「女性部の活動は、「あつま国際雪上3本引き大会」や「あつま田舎まつり」、「少年サッカー大会」、「盆踊り」での出店のほか、花壇整備や町内清掃活動、3年に1度の電話帳作りなどだそうです。しかし、新型コロナウイルスの影響で、今年は1月の「あつま国際雪上3本引き」を最後に事業は中止。女性部設立40年の節目に遭遇した「試練」でしたが、「結束力を高めよう」との声が上がり、10月に記念旅行を実施することになりました。活動は停滞していましたが、知恵を出し合う機会にしたいと考え、上田さんは「社会貢献に役立つ活動を模索したい」と話してくれました。

「田んぼが黄金色に輝く今の季節が大好き」と上田さん。美味い新米に思いを馳せるといいます。日常生活の中に、四季を感じさせる自然が溶け込んでいるのが、厚真の魅力とキツパリ。「人懐っこくて、住みやすい町。皆さんが手を取りながら暮らせるように、これからも走り続けます」。

あなたにとっての  
愛すべき厚真を投稿してください



フェイスブック  
@atsumatownhokkaido



インスタグラム  
atsumalovers

ハッシュタグ#atsumaloversをつけてフェイスブックまたはインスタグラムに投稿してください。

# ATSUMA LOVERS